

# 韓国幼稚園教育 (一)

## — 創立期の特性 —



李 相 琴

はじめは韓国の幼児教育全般にかけて書くつもりであったが、その量や内容をこなすには、いま私がおかれている状況では無理なことだと思ひ、今回は幼稚園教育に限定することにした。そこで創立期から現在にいたる過程を三回にわけて (一) 創立期の特性 (二) 植民地時代の様相 (三) 戦後の動向 という副タイトルをつけ、韓国幼稚園教育の変遷を歴史的な流れにそって述べたいと思ふ。

### 1 幼稚園創立の背景

李朝時代の長い鎖国政策に終止符をうたせたのは一八七六年(明治九年)の江華条約(韓国修好条約)であった。中国や日本に比してもっともおおそく開国した韓国は新しい文物制度をとり入れるために諸外国の協力をまたなければならなかった。日本について一八八二年から、米・英・独・仏など諸外国とも修好条約を締結し近代化

の協力者としていわゆるお雇い外国人を迎い入れることになった。なかでも日本と清国は優勢であり、お互いに競合しつつ進出を争ったのである。しかし日清戦争で清国勢はしりぞき変ってロシア勢が台頭した。これも日露戦争によっておさめられたので日本は独歩的に強力な位置を確保することになる。

日韓併合は正式には一九一〇年からということになるがすでに一九〇五年に保護条約が結ばれ実質的な支配体勢に入っていた。これは政治や経済面だけでなく教育についてもっていいし、人事権・財政権などは日本人の意のままになるように制度化されていた。このような政情の変化に危機意識を感じた韓国人は教育救国の念に燃え私立学校設立を急いだ。当時韓国の私立各種学校は、その設立者が韓国人・日本人・西洋人と多様であり、設立も廃止も任意で学部（文部省にあたる）は関知する所がなかった。開国当初から政治各方面に参与してきた日本人としてはこの現象を学政上の一大欠点とみている。

韓国の私立学校設立による教育熱がもっとも上昇した

のは一九〇五―六年とみられる。一例をとれば平安北道では一郡内に百を越える私立学校が創設された。もちろん有形無実なものがあったことであろうが、当時の韓国人の心情を察するに適例であろう。これに対し政府は私立学校の統制をはかり一九〇八年（明治四十一年）私立学校令を發布した。一九一〇年以後、いわゆる日韓併合後は私立学校を規制する法令は改訂を重ねその統制が強化されたのは言うに及ばぬことである。

さて、このような情況と幼稚園教育がどんな関係に立つのかを説明しよう。前記の私立学校令と前後して各種の教育令が發布されることになり、高等女学校令も制定された。その高等女学校令に附属幼稚園設立に関する項目が含まれている。すなわち「高等女学校に附属幼稚園を設立することができる」と規定されたのである。なお官立漢城高等女学校学則として幼稚園教育の施行規則が次のように決められた。

一、本校に附属幼稚園を設置する

一、幼児の年令は満四才より普通学校に入学するまでと

する

一、幼児の定員は八十人にする

一、保育の項目は遊戯、唱歌、談話及手技とする

一、保育日数は一日五時間以内とする

一、保母一人が保育する幼児数は四十人以下とする

一、保育料は徴収しない

一、休業日及入園退園する節次は本校規程を準用する

この官立漢城高女学校は一九〇八年四月一日開校されたが附属幼稚園が開設されるのは、数年後となり、それよりも上記学則と一致するものではない。(後記、日本系幼稚園)

ともかく高等女学校令の制定により公私立の附属幼稚園を設置し得る法的根拠が一九〇八年にはじめて制立されたのである。法令発布以前日本人幼稚園はすでに創立されており、韓国人幼稚園はずっとたちおくれる。今回、創立期の特性(一)では韓国に幼稚園教育が導入された初期の各特性ある最初の幼稚園をとりあげて説明をすすめることにする。

## 2 最初の幼稚園

韓国の地に幼稚園という形態の教育機関が創立されたのは一八九七年(明治三〇年)のことであり、日本人が日本人子弟のために開設したものであった。この最初の幼稚園は釜山の 大谷派本願寺別院内に私立として発足した。

当時、韓国の日本人居留民はまさに激増しつつあった。当然のこととして港を中心に居留民は集団化していった。日本人居留民の大きなやみは子女教育問題であり、小学生教育も寺小屋式組織で行はれていた。その時期に居留民たちは幼稚園設置を要望しているのである。

明治三〇年といえば日本国内においても全国四十六の都道府県に最初の幼稚園を開設したところが約半数にいたる時期である。海外進出日本人の教育熱が高かったとみられるのである。しかし居留民の希望とはいえ自治体の財政に余裕がなく苦心していた折、釜山所在の大谷派本願寺釜山別院輪番である管原磻城氏の尽力により開設で

きるようになった。本山の補助ならびに領事と居留民総代の援助をうけ一八九七年（明治三〇年）三月三日私立釜山幼稚園は創立された。

創立当初は北浜通信部の家屋を併用して幼稚園々舎としたが同年五月東本願寺内に移転した。園児は最初二十余名にすぎなかったがその後順調に園勢が拡張し百二十名の定員を上廻る志願者が集まってきた。一九一四年（大正三年）居留民団の廃止により補助源がなくなったがこの私立釜山幼稚園は終戦の時期まで存続した。

韓国に幼稚園という教育機関を導入したのは日本人であり、日本人子弟のためのものであった。最初の幼稚園となった釜山幼稚園はその背景が寺院であったこともひとつの特性であり、その後の韓国内日本人幼稚園も寺院設立が多かった。

### 3 最初の公立幼稚園

一九〇〇年（明治三十三年）にはソウルと仁川に記念幼稚園が設立された。この両幼稚園は東宮殿下御成婚の

奉祝記念として各居留民団で有志らの寄附により開設されたものである。

ソウルでは庚子記念京城幼稚園として南山本願寺の一部を借り園舎に使用した。一九一四年学校組合に移管され一九二二年に庚子記念京城公立幼稚園と改称され、また園舎も新築した。この幼稚園の教育対象はもちろん日本人子弟のみであった。

仁川記念幼稚園は一九一二年に居留民団廃止と同時に学校組合立となり公立幼稚園になった。幼稚園教育の趣旨として「幼児に適當なる保育を施して心身の健全なる発達を遂げしめ善良なる習慣を養い家庭教育を補うにあり、保育の項目は遊戯、唱歌・觀察・読話・図画・手技とす」とのべている。この趣旨は創立当初のものではなく一九三〇年（昭和五年）刊行の朝鮮教育大観に記録されたので保育項目に觀察が含まれているものと思う。

以上、二園はそれぞれソウルと仁川に開設された最初の幼稚園であり、その後公立化されることにより最初の公立幼稚園となる。しかし両国とも日本人子弟のための

幼稚園であった。したがって韓国幼稚園史では幼稚園前史としての意義のみを認めている。

#### 4 日本系幼稚園

いよいよ韓国子弟のための幼稚園が設立されることになった。一九一三年（大正二年）に開園した京城幼稚園がそれである。京城幼稚園の創立委員は百名以上に及び歴史とした名単をみることができる。時の中枢院参議をはじめとし京城府尹等政界著名人士また財界実業家の有名実力家たちである。日韓併合から間もなくこれら委員は親日派一色であった。

また幼稚園入園資格を創立委員子弟に限定し自ら貴族幼稚園化し、入園費、保育料もひじょうに高価であったため一般韓国人とは縁遠いものであった。修了式には大臣や高官等が参席し特権階級専有の幼稚園であった。

保母は日本人を採用し保育内容は日本の風習と習慣を教えることと日本語教育に重点をおいたため本来の幼稚園教育とも距離が遠かった。

当時の保母は京口さだ子といい『婦人と子ども』第17巻に二回にわたり「朝鮮幼児保育苦心談」をくわしくつたえている。

倉橋惣三先生は一九一六年（大正五年）夏、ソウルを尋ねていられ、その時のようすを簡略に『婦人と子ども』第16巻にのべている。そのなかに京城幼稚園の京口さだ子と前記した庚子記念京城幼稚園の大和田りようが熱心に保育にはげんでいたと言及され、この両幼稚園以外にソウルに幼稚園はなかったとある。これは日本人が関与した幼稚園がなかったとの意味で理解するよりほかない。なぜならば韓国子弟のための幼稚園がすでにソウルで開園されていたからである。

この京城幼稚園は創立当時官立京城高等女学校構内に設立され女学校の校長が名誉園長を兼ねていた。これは一九〇八年に発布された高等女学校令と官立漢城高等女学校学則によったものである。（漢城が京城と改称された）しかし借家住いは長くなく翌年園舎を新築している。

京城幼稚園は人的構成員が創立者は親日人士、保姆は日本人、保育内容は日本人化指向ということで日本系の幼稚園と指摘され、やはり韓国幼稚園史の正史からは除外される。

## 5 キリスト教系幼稚園

一八八二年、日本について西洋諸国との修好条約が締結されるや、あいついでキリスト教宣教師が到来した。

布教手段として医療事業と教育事業に集中したのはどの教派とも共通な特性であった。開国したばかりの韓国に近代教育を導入したのはこの宣教師たちであった。韓国の最初の女子教育機関として発足した梨花学堂も、一八八六年（明治十九年）米国からきた北メソジスト派の女宣教師による創立である。現在梨花女子大学校という世界一規模の大きい女子大学に発展している。

一九一四年（大正三年）梨花学堂に幼稚園が附設された。米国オハイオ州シンシナチで幼児教育を専攻したアメリカ人女性によって指導された。これに先だって一九

一三年に広島府のメソジスト系学校出身のタシマという日本人保姆がきて幼稚園をひらき指導したが、健康のため休園になっていたという。

梨花幼稚園は韓国人子弟のための教育機関であった。また貴族でない一般家庭の子どもがいただける幼稚園でもあった。最初十六名の園児があつまつた。若くて美しいアメリカ人教師は明るくたのしく保育をしたがいろいろな難関にぶつかった。その頃、西欧人を洋鬼といつて忌避する傾向があつたためへんなうわさがとび困惑した。「洋鬼が幼児の目玉を抜いて薬にするそうだ」というのである。もちろんこんなうわさは宣教師たちの誠意によつてなくなつたが、その次は保育に対する不信であつた。「学校とか教育といえは勉強するものなのにあの幼稚園ではちつとも教えないで遊ばしてばかりいる」という不満であつた。

ブラウンリという女教師は「母親会（マザーズミーティング）」をとおして母親教育を併行させた。ミス・ブラウンリは教材のほんやくにも努力し数多くの業績をの

こしている。その後米國留学を終えた韓国人教師達によって梨花幼稚園はたゆみなく發展しつづけた。

キリスト教系幼稚園として最初である梨花幼稚園は實質的に韓國幼稚園の開拓者であり先導者でもあった。というのは終戦前はもちろんごく最近まで韓國の幼稚園は私立幼稚園しかなくその私立幼稚園の七十五%がキリスト教系幼稚園であった。そして幼稚園開設とほとんど同時に教師養成をはじめた梨花からは韓國幼児教育界に多くの指導者、専門家を輩出したからである。

## 6 民族系幼稚園

韓国人が韓国人のために幼稚園を創立する日がようやくきた。一九一六年（大正五年）のことである。当時、Y M C A 幹事であり後に独立運動（一九一九年三月一日万才運動）主導者人のひとりである朴照道氏が韓国人有志によびかけた。すなわち「三十万人の朝鮮人が住んでいるソウルに朝鮮人が経営する幼稚園がひとつもないということは民族的恥である」と主張し、多くの愛国的同

志をあつめた。そして開園されたのが中央幼稚園であり今日の総合大学中央大学の母体になった。

しかし創立者は韓国人であったとはいえ、幼稚園々長は梨花幼稚園々長であるミス・フライがあたり、幼稚園運営は梨花幼稚園のミス・ブラウンリがうけもった。しぜん保育内容は梨花幼稚園と同一のものであった。

ここで特記することは中央幼稚園の創立精神もしくは目的である。「将来の朝鮮をになうたためによく働きよくたたかう勇士を養成する機関を創立し国民の前途を開くことを目的とする。興味ある方法、やさしい教育課程、あたたかい愛情で園児を指導し、規則的な幼稚園生活とおして園児達を健全な社会人に養成しようとするものである」とのべている。挑戦的でもありひじょうに強烈な民族意識をあらわしたものと見える。中央幼稚園は民族教育の道場として幼稚園からの教育を含めていることにその特性をみることができる。この精神は終戦まで続く韓國学校教育の抗日思想とつながるものである。

〔筆者は、韓國梨花女子大学教授〕